

**第9回プラチナ大賞において三菱ケミカルの  
「生分解性樹脂 BioPBS™と地域資源を用いた循環型社会の構築」が優秀賞を受賞**

株式会社三菱ケミカルホールディングス  
三菱ケミカル株式会社

株式会社三菱ケミカルホールディングス（本社：東京都千代田区、社長：ジョンマーク・ギルソン）とその事業会社である三菱ケミカル株式会社（本社：東京都千代田区、社長：和賀 昌之、以下「三菱ケミカル」）は、プラチナ構想ネットワーク及びプラチナ大賞運営委員会が主催する第9回プラチナ大賞において、三菱ケミカルが取り組む「生分解性樹脂 BioPBS™と地域資源を用いた循環型社会の構築」が、優秀賞（グリーン技術革新賞）を受賞しましたことをお知らせいたします。

三菱ケミカルでは、プラスチック廃棄物の増加、海洋プラスチックごみ問題や地球温暖化という環境問題の解決に通ずるひとつの手段として、生分解性樹脂 BioPBS™の開発を進めてきました。BioPBS™は、土壌中の微生物によって、水と二酸化炭素に完全に分解することが可能であることからプラスチック廃棄物削減に貢献でき、また植物由来の原料を使用しているため、二酸化炭素の排出量削減に寄与できる素材です。

三菱ケミカルは、2020年から八ヶ岳エリアで BioPBS™を起点とする循環型社会形成のプロジェクトを実施しています。具体的には、BioPBS™を使用した紙コップ、ストロー、カトラリー等について、使用後の製品を八ヶ岳中央農業実践大学校でコンポスト処理（堆肥化）し、出来た堆肥を協力農家で野菜栽培に使用するという資源循環の実証事業を行っています。さらに、この循環システムで出来た野菜を「サステイナブル野菜」とブランド化し、三菱ケミカル関係会社のカフェで提供されるメニューに使用することで、消費者がプラスチックごみ問題について考えるきっかけを与える活動も行っています。良質で美味しい八ヶ岳産の野菜を食べていただくことで、八ヶ岳野菜の価値向上と地域活性化に繋がることも期待されています。また、生産野菜をこども食堂（自治体などが主体となり、子どもたちに食事を提供するコミュニティ）へ寄贈する活動も積極的に行っており、コロナ禍での地域密着型社会貢献にも取り組んでいます。



今般、本プロジェクトが地域活性化にも貢献する資源循環の取り組みとして評価され、優秀賞（グリーン技術革新賞）を受賞しました。三菱ケミカルホールディングスグループでは、今後も地域と連携しながら、資源循環システムの構築を目指して参ります。

【参考：プラチナ大賞について】

プラチナ構想ネットワークは、日本が先進国として直面する課題の解決と新たな可能性の創造によってもたらされる豊かで快適な社会を「プラチナ社会」と定義しており、プラチナ大賞は、イノベーションによる新産業の創出やアイデアあふれる方策などによりそれら課題を解決している自治体や企業などの取り組みを表彰し、プラチナ社会のモデルとして紹介することを目的としています。

三菱ケミカルホールディングスグループの過去受賞実績としては、第4回プラチナ大賞にて株式会社ウエルシィ（現 三菱ケミカルアクア・ソリューションズ株式会社）の『地下水を飲料化する自立分散型給水システム「地下水膜ろ過システム」による国内外の持続可能なまちづくりへの貢献』が優秀賞を受賞しています。

- ◆ プラチナ大賞 WEB サイト：<https://www.platinum-network.jp/activity/pt-taishou/>

以 上

お問合せ先 株式会社三菱ケミカルホールディングス コーポレートコミュニケーション室 TEL 03-6748-7140 三菱ケミカル株式会社 広報本部 TEL 03-6748-7161
---